

トルクメン通信 第1号

2015年9月20日作成

こんにちは。池上研修了生の上原龍彦と申します。

現在、私はトルクメニスタンにあるアザディ名称世界言語大学で日本語講師として働いています。「トルクメニスタンで日本語教師をすることになりました」と知人に話すと、十中八九「トルクメニスタン？どこそこ？」という反応が返ってきます。最初のうちは真面目に答えていたのですが、だんだん答えるのが面倒になり、最終的には「もう、自分で Wikipedia で調べて！」と投げやりな回答になっていきました（笑）。ですが、かくいう私もトルクメニスタンとのご縁があるまでは、名前しか知らない、そんな程度の国だったので、そのような質問は無理もないと思います。そのくらい「トルクメニスタン」という国は日本にとって未知、むしろそれ以前に「知っている／知らない」という段階にも至らない国なのかもしれません。投げやりな回答をしてしまった方々、ちゃんと答えずに申し訳ありません・・・。

そんな未知の国「トルクメニスタン」について少しでも知っていただくために、「トルクメン通信」では、トルクメニスタンという国やその生活、文化などについてはもちろん、トルクメニスタンの日本語教育事情などを私の視点から発信していきたいと思えます。時には私の身の上話も挟み込まれるかもしれませんが、その点をご容赦ください。今回はトルクメニスタンという国について、そしてアザディ名称世界言語大学の日本語学科についてお伝えしたいと思います。



まずは「トルクメニスタン」という国について。トルクメニスタンは「何とかスタン」という国が集まる中央アジアにある国です。南はイランとアフガニスタン、北はカザフスタン・ウズベキスタンと国境を接しており、西にはカスピ海があります。国土のほとんどが砂漠で、一年・一日の気温差が大きい、典型的な砂漠気候の国です。他の中央アジア諸国と同様、トルクメニスタンも旧ソ連の一部でし

たが、1991年に独立を果たし現在に至ります。面積は約49万平方キロメートル、人口は約530万人（今はもう少し多いかもしれません）で、言語はトルクメン語やロシア語が広く使われています。なんとなくこの国の位置と概略は分かっていただけかもしれませんでしょうか？旧ソ連圏なので、位置的にロシアに何となく近いんだなーなんて思っていただけでも大丈夫です。

トルクメニスタンは世界有数の天然ガスの埋蔵量を誇る国として世界から注目を集めており、近年では日系企業も進出、トルクメニスタン大統領も何回か来日するなど、両国の関係は徐々に進展しつつあります。それに伴い、日本でもトルクメニスタンに関するテレビ番組が放映されるようになり、以前よりは身近な国になってきています。その中でトルクメニスタンを表す言葉としてよく使われるのが「中央アジアの北朝鮮」。独立後、ニヤゾフ初代大統領による独裁政権がしばらく続いたためそのように言われるのだと思われま。確かに言論統制・情報統制、その他制限はありますが、それを除けば私の周りのトルクメニスタンのみなさんは普通に生活していますし、決して怖い国ではありません。

このように日本との結びつきが構築されていく中で設立されたのが、今私が働いているアザディ名称世界言語大学東洋言語・文学部日本語学科です。現在の大統領であるメルディムハメドフ大統領の提案により2007年に設立されました。ちなみに大学は首都のアシュガバードにあります。学年は1年生から5年生まであり、各学年約10名、計約50名の学生が日本語を学んでいます。月曜日から土曜日まで週6日、80分授業が3コマあり、学生は朝8時30分から午後1時まで大学で勉強しています。午後や休日は自由に過ごせる！・・・かと思いきや、学生たちは国家イベントに駆り出されるため、あまり自由な時間はないそうです。日本に行くチャンスはなかなかありませんが、それでも毎年数名トルクメニスタンから日本の大学へ留学しています。現在、日本語学科はトルクメン人講師が3名、日本人講師が私1名で運営していますが、諸事情によりフルで授業を担当できるのが私だけなので、週17コマという過密スケジュールで授業をこなしています。このトルクメン通信をご覧になっていただいている方で我こそはと思う方、是非ご連絡ください(笑)。



今回はトルクメニスタンとアザディ名称世界言語大学日本語学科の概略をお伝えしました。実際の授業や学生の様子、トルクメニスタン事情について書きたいことは山ほどあるのですが、次回以降少しずつ書いていこうと思います。

赴任から約3週間が経ち、徐々にこちらの生活にも慣れてきました。ですが、インターネットもテレビもない生活に正直飽きてきています(インターネットはもちろんできますが、通信速度が遅くつながりにくいいため、あまり使っていません)。自分が日本でどれほどそれらに依存していたか痛感させられました。もしかしたら、だからこそ、日本語教育とゆっくり向き合える贅沢な時間を過ごしているのかもしれない。ただ、ずーっと日本語教育漬けだと身体的にも精神的にもあまりよくないので、リフレッシュの方法を早く見つけたいと思います。

そんなこんなで、トルクメン通信第1号はこの辺で。第2号はいつになるかわかりませんが、月1回くらいは発行しようと考えています。あまりレイアウトのセンスがないので、しばらくは文字と写真ばかりになってしまいますが、徐々に腕を上げていければと思っています・・・。「ワードでもこんな感じで記事が作れるよ！」という情報をお持ちの方、是非ご教示ください(笑)。もし、ご質問・ご意見・ご感想などがございましたら、下記までぜひご連絡いただければありがたいです。

それでは、また次号でお会いしましょう！

上図：トルクメニスタンの位置

(うまく地図がダウンロードできなかったので、手書きで書きました。見苦しくて申し訳ありません。)

下写真：アザディ名称世界言語大学東洋言語・文学部の校舎

参考：外務省ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/turkmenistan/data.html#section1>

アザディ名称世界言語大学 上原龍彦
(azadyuehara★gmail.com ★を@に変えてください)